

## インターバンクの声（2016年3月30日）

ニューヨーク時間の昼過ぎ、今週の金融市場が注目していた米国の2つのビッグ・イベントの一つ、イエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長の講演の内容が伝わってきた。先週まで相次いでいた複数の地区連銀総裁からの4月の利上げ示唆発言に歩調を合わせるのか、それとも議長お得意のいつもの慎重な方針を示してくるのが焦点だったが、結果は案の定後者だった。海外の成長鈍化が米経済に及ぼすリスクを指摘、追加利上げについては慎重に進めるのが適切だと表明した。昨夜はダラス連銀のカプラン総裁の講演もあったが、先週相次いだ他の地区連銀総裁のようなタカ派的な発言ではなく、イエレン議長のハト派的な姿勢を支持するものだった。ダラス連銀といえば、カプラン総裁の前の総裁はタカ派で知られた重鎮リチャード・フィッシャー氏だった。FRBでは永くハト派寄りのイエレン議長とは対立する立場を堅持していたが、同氏の定年退職がもう少し先になっていればと考えてしまうのは私だけではないはずだ。カプラン総裁の発言が議長を援護してくれる格好となり、議長も内心ほっとしているに違いないが、4月の連邦公開市場委員会（FOMC）まではまだ一カ月近くあり、昨夜の議長発言で利上げが先送りになったとの判断はまだ早い。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。